

クラウドを採用する企業の上位に 製造業がランクイン

ジョニー・ウェクスラー */Principal, B2Bライター



Vanson Bourne社が実施した最新の調査結果によると、製造業は他の業界に比べてパブリッククラウドとハイブリッドクラウドの導入が進んでいる。特にパブリッククラウドを積極的に採用する理由は、製造業がレガシーシステムへの依存から生じている「イノベーションの行き詰まり」を回避するために最新のテクノロジーに注目していることを表している。

また、同社によると、クラウドテクノロジーによって提供される分散コンピューティングモデルは、速度、柔軟性、ローカリゼーションを実現し、製造業者は品質を損なうことなく効率を改善することができるという。

世界中の様々な業態の企業を対象とした調査レポート、[Nutanix Enterprise Cloud Index \(ECI\)](#)によると、クラウドを活用した製造業の将来の見通しは明るい。そして、一つのパブリッククラウドサービスを使用している製造会社の平均が20%と他の業界よりも多く、世界平均の14%を大幅に上回っていることが判明している。

また、2018年時点で複数のパブリッククラウドサービスを使用していると報告している製造業者は少ない(世界平均12%と比較して9.5%)が、2年以内にマルチ

クラウドの使用率を19%に倍増する計画も報告されている。その間、それは予想される世界のマルチクラウドの平均的な普及率よりも1ポイント高いと言われている。

ハイブリッドクラウドは 理想的なITモデル

ECIの回答者ほぼ全て(91%)は、プライベートクラウドとパブリッククラウドを混在して使用するハイブリッドクラウドの運営を理想的なITモデルとして挙げているが、すでに8.5%がそれを導入していると述べている。これらの数字から読み取れる現状は、クラウド間のアプリケーションの可搬性の制限と不完全な統合問題が見え隠れする。そして、ほぼすべての回答者が、アプリケーションを最も適切なインフラストラクチャーに対応する際の柔軟性を高めるために、こうした点の改善を望んでいるという。

「アプリケーションの可搬性は絶対に必要なものですが、はじめにレガシーアプリケーションを実行できるパブリッククラウドを構築する必要があります。そして、そのときこそ、真のハイブリッドクラウドの実現が可能になります」とニュータニックスのCTOである、

ラジブ・ミラニは述べている。

具体的には、パブリッククラウドとプライベートクラウド間で相互運用性を保つことは、製造業を含むすべての企業がハイブリッドクラウドコンピューティングを採用する最大のメリットになるという。また、調査した企業のほぼ4分の1(23%)が、この点を上位メリットと考えており、製造業は業界の平均(27%)よりも高い割合でメリットと捉えている。さらに、全企業の61%および製造業者の過半数(55%)は、クラウド間のアプリケーションの可搬性が今後必須であると述べている。また、すべての企業が、セキュリティとハイブリッドクラウドのスキルセットの不足を、この目標を達成するための主な課題として挙げている。

実際にハイブリッドを採用した企業の数値を見てみると、製造業は普及率19%で平均を上回っている。製造業界には、ハイブリッドの導入を2年間で2倍以上にして、45%の普及率にする計画があり、それは平均的なハイブリッドクラウドの普及率を4ポイント上回り、ハイブリッドを活用しているエネルギー/公共サービスに次ぎ2位となっている(表1および表2参照)。

表1: 企業のワークロード分布 (現在)

	すべての企業 (世界平均)	製造業	メディア、娯楽、 エンタテインメント	官公庁・政府
従来型 データセンター	40.5%	43%	38%	36%
プライベート クラウド	33%	31%	35%	34%
単一のパブリック クラウド	14%	20%	5%	17%
複数のパブリック クラウド	12%	9.5%	6%	14%
ハイブリッド クラウド	18.5%	19%	25%	14%

表2: 企業のワークロード分布 (今後2年以内)

	すべての企業 (世界平均)	製造業	エネルギー/ 公共サービス	メディア、娯楽、 エンタテインメント
従来型 データセンター	18%	20.5%	12%	16%
プライベート クラウド	18%	18%	23%	22%

クラウドによるコスト管理

ハイブリッドクラウドを展開するもう一つの動機は、企業がパブリッククラウドのコストを制御する必要があることだ。パブリッククラウドを使用している全組織の3分の1以上(35%)、およびパブリッククラウド

ドを使用している製造業の企業の36%が、パブリッククラウドに関わるコストが予算を超えていると述べている。

IT/テクノロジー/通信組織、建設および不動産会社、エネルギー/公共サービス業界では、パブリッククラウドのコストが予算を40%から46%上回るとの指摘もある。パブリッククラウドへのコスト管理に最も成功した業界は、メディア、娯楽、エンタテインメント業(予算を26%上回る)だった。前述の7つの業種はパブリッククラウドのコスト管理を得意としていないが、メディア、娯楽、エンタテインメント業以外に、小売業と官公庁・政府は、製造業よりもパブリッククラウドのコスト管理に優れているようだ。



将来を見据えた戦略はあるか？

ハイブリッドクラウドの潜在的な能力はデジタルビジネス環境においてますます必要性が高まっている。「企業は、その時々ニーズに最適な場所でアプリケーションを動的にプロビジョニングおよび管理する自由さを要求するようになります。アプリケーションは日々進化しています。現時点では、パブリッククラウドで何かを実行の方が安価かもしれません。しかし、今から2年後、使用率が増加するにつれて、自社データセンターで同じことを実行の方が理にかなっている可能性があります」とミラニは指摘する。

状況に応じて、あらゆるもの、データやアプリケーションを柔軟に移動できるようにすることが最終的に重要となり、企業が一つのアプリケーションの導入プロセスを非常に早い段階で決めてしまうことは避けなければならない。ミラニには続ける——「クラウド間の相互運用性、オーケストレーション、アプリケーションの

可搬性は、どんな企業にとっても可能になるはずだ。」

(2019年9月12日, THE FORECAST by NUTANIX)

記事構成: ニュータニクス・ニュース! 編集部, Nutanix Japan



* ジョニー・ウェクスラー氏は、20年以上に渡って、IT およびコンピュータネットワークテクノロジー領域取材する IT ライター / 編集者。

NUTANIXTM
YOUR ENTERPRISE CLOUD

お問い合わせ: 03-4588-0520

info-jp@nutanix.com | www.nutanix.com/jp | [@NutanixJapan](https://twitter.com/NutanixJapan)

東京都千代田区大手町 1-1-1 大手町パークビルディング 7F